

# 2006年9月中間期 決算説明会

2006年9月中間期 業績の概況

キョーリンググループの取り組み

主要開発品の状況

2006年11月9日

株式会社キョーリン

代表取締役社長 荻原郁夫



# 2006年9月中間期 決算概観（連結）

**06年9月中間期連結業績** 売上では、国内新医薬品が順調に推移し、連結売上高は351億円(前年比4.7%増)となりました。利益面では、売上原価率は前年比7.2ポイント上昇しましたが、販管費率は研究開発費の減少に伴い5.5ポイント低下した結果、連結営業利益は19億円(前年比19.3%減)、連結中間純利益は8億円(前年比42.9%減)となりました。

**07年3月期連結業績予想** 売上では、新医薬品のうち国内は薬価改定の影響はあるものの前年を上回るものと予想しておりますが、海外は前年を大幅に下回る見込みです。新規事業(東洋ファルマー、ドクタープログラム)は業績が12ヶ月間フル寄与することから前年を上回る見込みです。その結果、連結売上高767億円(前年比3.6%増)を見込みます。利益面では連結営業利益63億円(前年比29.9%減)、連結当期純利益36億円(前年比31.1%減)を見込みます。なお、配当については1株につき年間20円(中間期10円)を予定しております。

単位: (百万円)	04年9月期	05年9月期	06年9月期	前年比	07年3月期 (予想)	前年比	07年3月期 (当初予想)
売上高	31,056	33,511	35,093	4.7%	76,700	3.6%	75,600
営業利益	1,595	2,406	1,940	▲19.3%	6,300	▲29.9%	5,700
経常利益	1,974	2,753	2,061	▲25.1%	6,700	▲29.2%	6,400
中間純利益	1,307	1,459	833	▲42.9%	3,600	▲31.1%	3,500
EPS	17.59円	19.65円	11.21円	▲43.0%	48.41円	—	47.07円
総資産	118,558	116,566	117,915	1.2%	—	—	—
純資産	91,460	91,483	94,993	—	—	—	—

\* 05年9月中間期決算数値(連結)までは杏林製薬の数値、06年9月期業績及び07年3月期予想(連結)は株式会社キョーリンの数値を示す(以下の資料についても同様の数値を示す)

# 2006年9月中間期 連結業績の状況



単位:億円

	05年 9月期 (実績)	06年 9月期 (実績)	対前年 増減
売上高 合計	335	351	+16
◆新医薬品	301	287	▲14
国内	259	265	+6
海外	42	22	▲20
◆後発 医薬品	10	26	+16
◆ヘルスケア	18	33	+15
◆その他	6	5	▲1
営業利益	24	19	▲5
経常利益	28	21	▲7
中間純利益	15	8	▲7

売上高	351億円		対前年 (+16)	対予想 (+4)
国内新医薬品	265億円		(+6)	(+1)
		05.9実績	06.9実績	
・キプレス		61	69	(+8)
・ムコダイン		85	89	(+4)
・ペンタサ		36	40	(+4)
海外新医薬品	22億円		(20)	(1)
・ガチフロキサシン		35	18	(17)
* 効力(BMS)販売中止				
後発医薬品	26億円		(+16)	(2)
* 東洋ファルマのフル寄与(前年は2ヶ月のみ計上)				
ヘルスケア	33億円		(+15)	(±0)
・ミルトン		11	10	(1)
* 東洋ファルマ、ドクタープロダム(前年は未計上)のフル寄与				
その他	5億円		(1)	(2)
原価率:前年比7.2ポイント増加(34.2% 41.4%)				
* 上昇要因:杏林製薬の原価率上昇が主な理由 (薬価改定、能代新製剤工場の稼働に伴う減価償却費の増加等) その他東洋ファルマの連結子会社化等				
研究開発費率:前年比6.6ポイント減少(17.9% 11.3%)				
* 60億円 40億円(約20億円減少): 前年はプラス効能追加の申請(成人アレルギー性鼻炎)あり				
販管費率(除R&D費)				
:前年比1.1ポイント上昇(40.7% 41.8%)				
* 上昇要因:杏林製薬の海外売上減少に伴う販管費率の上昇。 ドクタープロダムの連結子会社化(前年は未計上)				
営業利益	19億円		(5)	(+4)
* 営業利益率は5.5%と1.7ポイント低下				
中間純利益	8億円		(7)	(+1)
特別利益:149百万円、特別損失:450百万円				
配当 10円00銭				

# 2007年3月期 連結業績予想

単位:億円

	06年 3月期 (実績)	07年 3月期 (予想)	対前年 増減
売上高 合計	741	767	+26
◆新医薬品	643	623	▲20
国内	557	574	+17
海外	86	49	▲37
◆後発 医薬品	35	59	+24
◆ヘルスケア	50	73	+23
◆その他	12	12	± 0
営業利益	90	63	▲27
経常利益	95	67	▲28
当期純利益	52	36	▲16

売上高	767億円		対前年	対当初予想
国内新医薬品	574億円		(+26)	(+11)
			(+17)	(+10)
		06.3実績	07.3予想	
・キプレス		134	146	(+12)
・ムコダイン		199	210	(+11)
*薬価改定の影響はあるものの数量ベース約9%の増加を目指す				
*ラピッドテストの売上を数億円見込む				
*ウリトスについては次年度の上市を見込む				
海外新医薬品	49億円		(37)	(± 0)
・ガチフロキサシン	67		(34)	
*ティン(BMS)の販売中止				
後発医薬品	59億円		(+24)	(1)
*東洋ファルマの業績がル寄与				
ヘルスケア	73億円		(+23)	(+5)
・ミルトン	21		(1)	
*ドクタープログラムの順調に売上を拡大、東洋ファルマおよびドクタープログラムの業績がル寄与				
その他	12億円		(± 0)	(2)
原価率...約5ポイント上昇				
*上昇要因:杏林製薬の原価率上昇が主な理由 (薬価改定、能代新製剤工場の稼働に伴う減価償却費の増加等) その他東洋ファルマの連結子会社化				
研究開発費率...13.6% 11.6%:2.0ポイント低下				
*研究開発費:101億円 89億円(12億円減:研究開発費の期ズレ)				
販管費率(除R&D費)...約1ポイント上昇				
*上昇要因;杏林製薬の海外売上減少に伴い販管費率は上昇				
営業利益	63億円		(27)	(+6)
*営業利益率:8.2%と3.9ポイント低下				
当期純利益	36億円		(16)	(+1)
配当	20円00銭(予想)			

# キョーリンMIC-'09計画

(2005年度～2009年度)

目指す企業像:

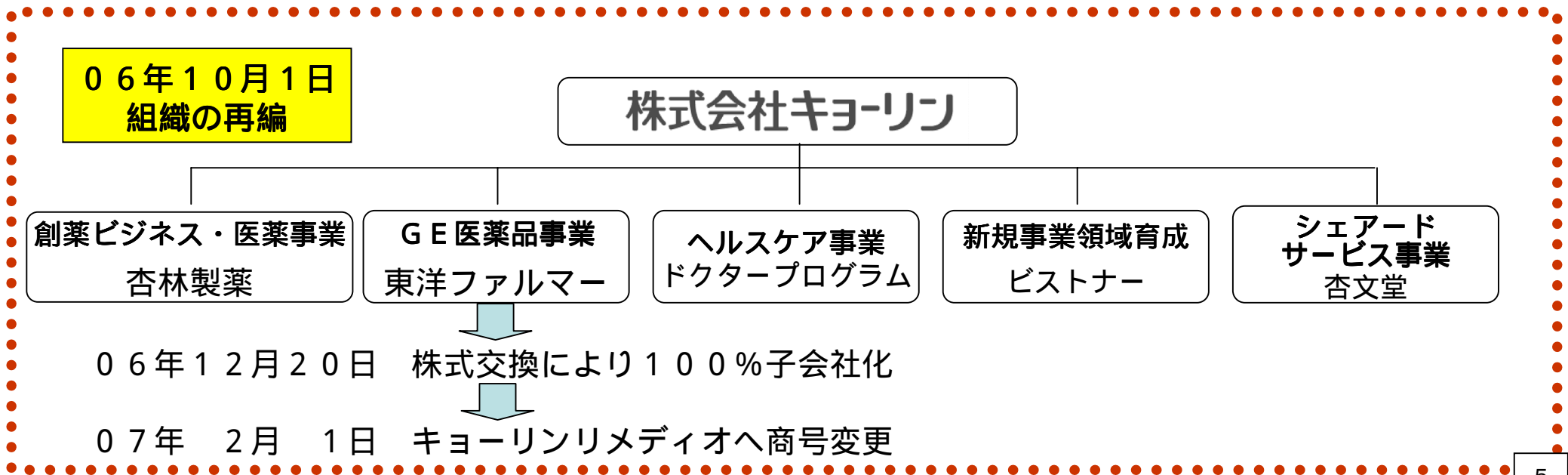
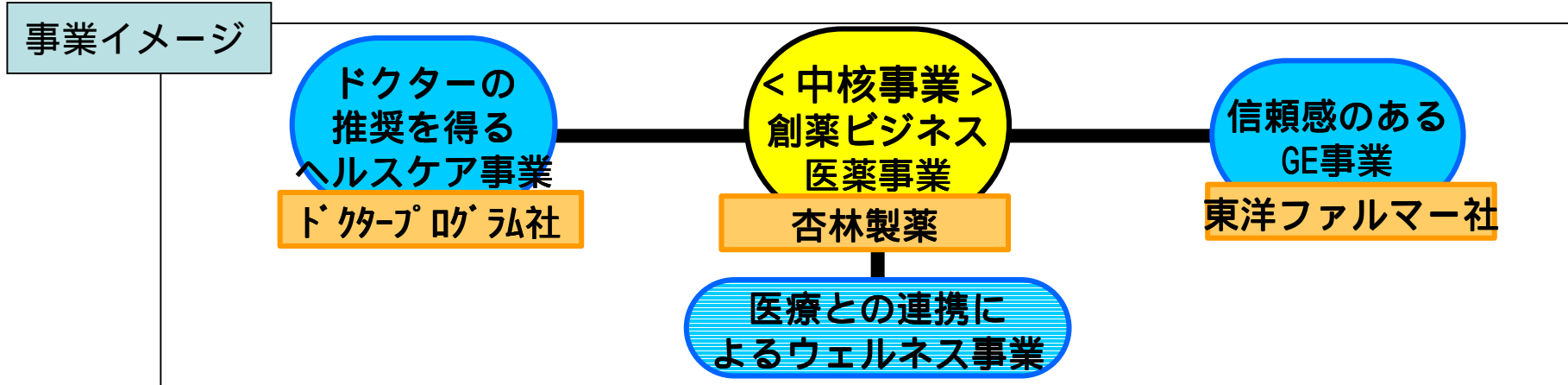
『創薬ビジネスをコアとし、信頼をベースとした

特色ある複合ヘルスケア企業』を目指して

基本方針:「進化と創造Ⅱ」

# 1. 持株会社制への移行と組織再編

キョーリンM I C - 0 9 計画の完達に向け、体制を再構築



## 2 . 基本戦略への取り組み

**基本戦略：**

**グローバル創薬企業としてのポジショニングの確立**

**創薬投資を支える医薬事業の競争力強化**

**医薬事業に次ぐ、将来を担う新規事業の構築**

## 当中間期の取り組み

- ① 創薬研究所および研究センターを研究本部に配し、連携強化を図る
- ② ActivX内に設置した開発拠点により、順調に海外臨床展開中(KRP-104)
- ③ 約6年が経過したキョーリンスコットランド研究所の効率的な活用を検討

## POCプロジェクト(5品目)の状況

KRP-104 (糖尿病治療剤)

米国でPhase 1 実施中(06年中に終了予定)。国内Phase 1 入り(06年7月)

KRP-204 (抗肥満剤)

06年6月 ADAにてPhase 1 a 結果を発表  
ライセンシング活動を展開中

KRP-203 (免疫調整剤)

ノバルティスファーマへ導出  
06年度中にPhase 1 開始予定

KRP-101、KRP-105 (脂質代謝改善剤)

PPAR アゴニストとしてはKRP-105を優先して、開発に取り組む

### ポイント

対象： 2型糖尿病 / 肥満

例数： 89例

投与期間： 12週

\* 内臓脂肪面積の有意な減少

\* 体重、ウエストでは減少傾向を確認



# 創薬投資を支える医薬事業の競争力強化

## 国内の営業戦略

## 中間期取り組み

## 中間期の状況

### FC戦略の推進

#### 製品戦略

- ・FC領域製品の補強
- ・LCMの推進  
(ライフサイクルマネジメント)

### 卸店政策の強化

#### ①定期訪問の強化

- ・面談率96%(目標100%)
  - ・面談回数は30%増/MR
- #### ②専門医との関係強化
- ・学会/研究会への継続注力

#### ③FC領域の更なる強化

- ・ラピッドテストの導入  
\*06年10月2日発売
- ・新薬上市に向けた対応

#### ①主要卸との関係強化

- #### ②プロモーションサポートフィーの活用
- ・MSとの協働体制を構築する施策

処方率 91%  
(目標100%)

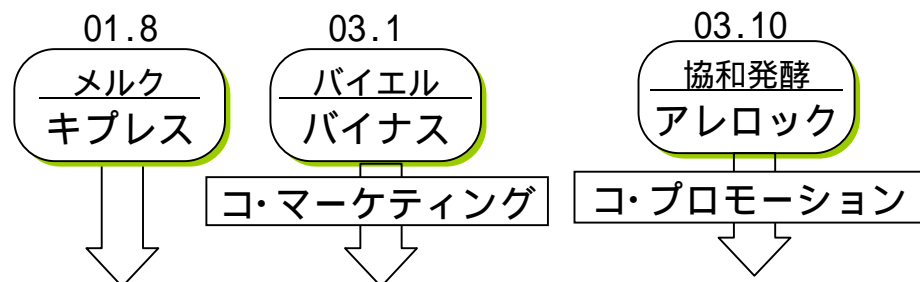
国内医療用医薬品  
+ 9.8%増加  
(数量ベース)

# ラピッドテストの導入によるFC領域の更なる強化

## アライアンス戦略によるFC3科の強化

FC領域で使用できる製品（診断用医薬品、器具・器械含む）の導入

FC領域外で主に処方される製品の導出



ライセンスインの強化

**FC領域（呼吸器内科、耳鼻科、泌尿器）で主に使用される製品の補強**  
**ラピッドテストの導入により呼吸器領域の製品ラインナップを強化**  
\* ムコダイン ガチフロの処方拡大におけるシナジー効果を期待

販売委託 / 共同販売の推進

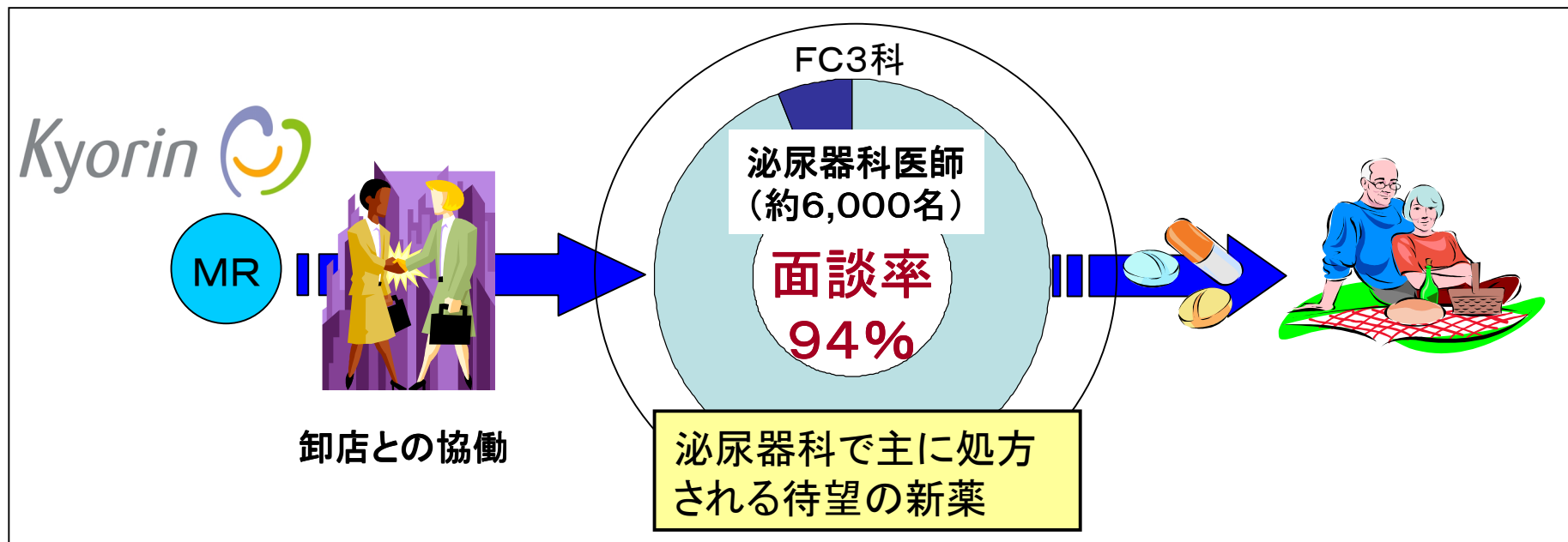


\* ラピッドテスト  
・ インフルエンザウイルスキット  
・ 操作が簡便で、3～10分で判定でき、  
A、B型インフルエンザの鑑別が可能

販売委託 / 共同販売

# 上市近づく過活動膀胱治療剤ウリトスの状況

1. 上市時期 : 07年度上期の上市を予想
2. 特長 : 膀胱選択性が高く、口内乾燥が少なく、長期間に亘って症状をコントロールできるOAB(過活動膀胱)治療薬
3. 市場概況 : 国内市場規模は約330億円(06年9月現在)  
2010年3月期には600億円以上に市場拡大すると予想
4. 目標 : 2010年3月期 シェア8~10%を目指す(キョーリン単独)
5. 今後の取り組み : **強みをもつ泌尿器科を中心に重点的なアプローチ**  
\* 定期訪問の継続と関係強化により、スムーズな市場浸透を図る



# キョーリン製薬 能代新製剤工場の稼働開始

## 方針 ローコストオペレーションの推進

- ・ 新生産体制として3工場を集約し、工場2拠点化
- ・ 大量または技術的に高度な製品を自社で生産
- ・ その他の製品はアウトソーシング（対応可能な製品は東洋ファルマーで生産）

稼働開始日 06年4月1日～

生産品目 主要内服固形剤

ムコダイン、キプレス、ケタス、ガチフロ、アプレース、（ウリトス）

## 特長

FDAのGMP基準に適合する国際水準の工場

最新鋭の設備の導入による生産性の向上

「働く人にやさしい」「環境にやさしい」工場



# 医薬事業に次ぐ将来を担う新規事業の構築

## 東洋ファルマー社：06年9月中間期の取り組み



**GOAL : GE企業の中でBEST5入り**

**MIC09計画の目標値：売上高100億円 / 営業利益10億円**  
**取り組み：体制の構築（～06年度）と成長（07年度～09年度）**

社会のニーズに応え、信頼されるGE企業を目指し、拡大するGE市場の中で成長を図る

～06年度 体制の構築～

**企業体力・事業の強化**

**信頼性の醸成**

**研究開発**

**製造**

**販売**

研究関連施設の新築  
(07年6月完成予定)

追補品 3成分5規格販売

2009年度目標  
7成分12規格

**品質の向上**

- ・ 取り扱い製品の整理  
キョーリン基準に合った  
製品のみ継続的に販売  
(中間期：180品目カット)
- ・ キョーリン製薬製品の受託生産
- ・ 6品目のバリデーション

**情報提供の充実**

- ・ MR増員  
(キョーリン製薬からの出向)
- ・ ITによる情報提供
- ・ キョーリン製薬との連携  
(特定地域で開始予定)

**安定供給**

- ・ 広域卸との取引開始
- ・ 販売ネットワークの確立
- ・ エリア別に重点販社選定  
(約60/200社)



**更なる成長のために : 商号をキョーリンリメディオへ変更**

# 医薬事業に次ぐ将来を担う新規事業の構築

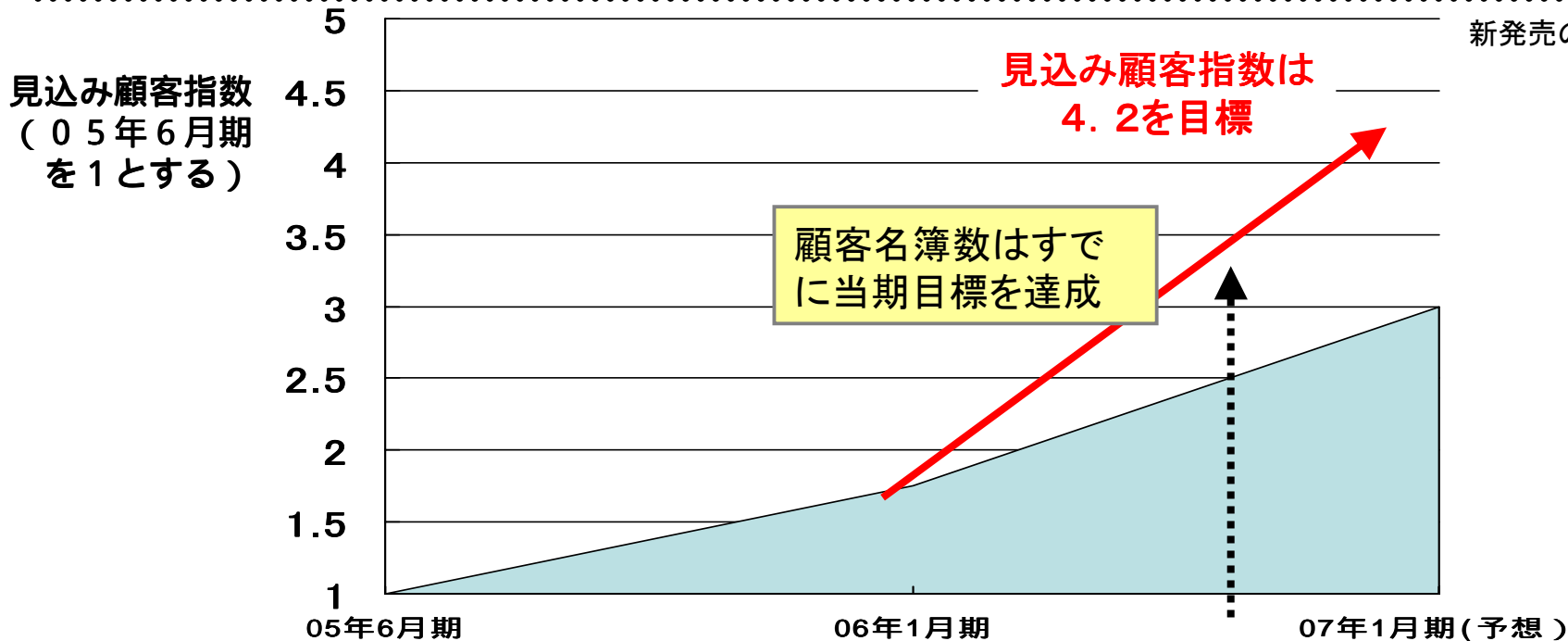
## ドクタープログラム：製薬系化粧品としてのブランド強化

単位：億円	05年6月期	06年1月期 (8ヶ月分)	07年1月期 中間実績	07年1月期 (当初予想)	07年1月期 (予想)	2010年1月期 (予想)
売上高	5	8	12	21	25	50
営業利益	0	0	1	1	3	営業利益率 10%以上



予測を上回る成長

- キョーリンブランド活用 ⇒ 新規顧客名簿の増加
- 自社研究開発センター設立による安定的な新商品開発力向上 ⇒ 商品アイテム数の拡充



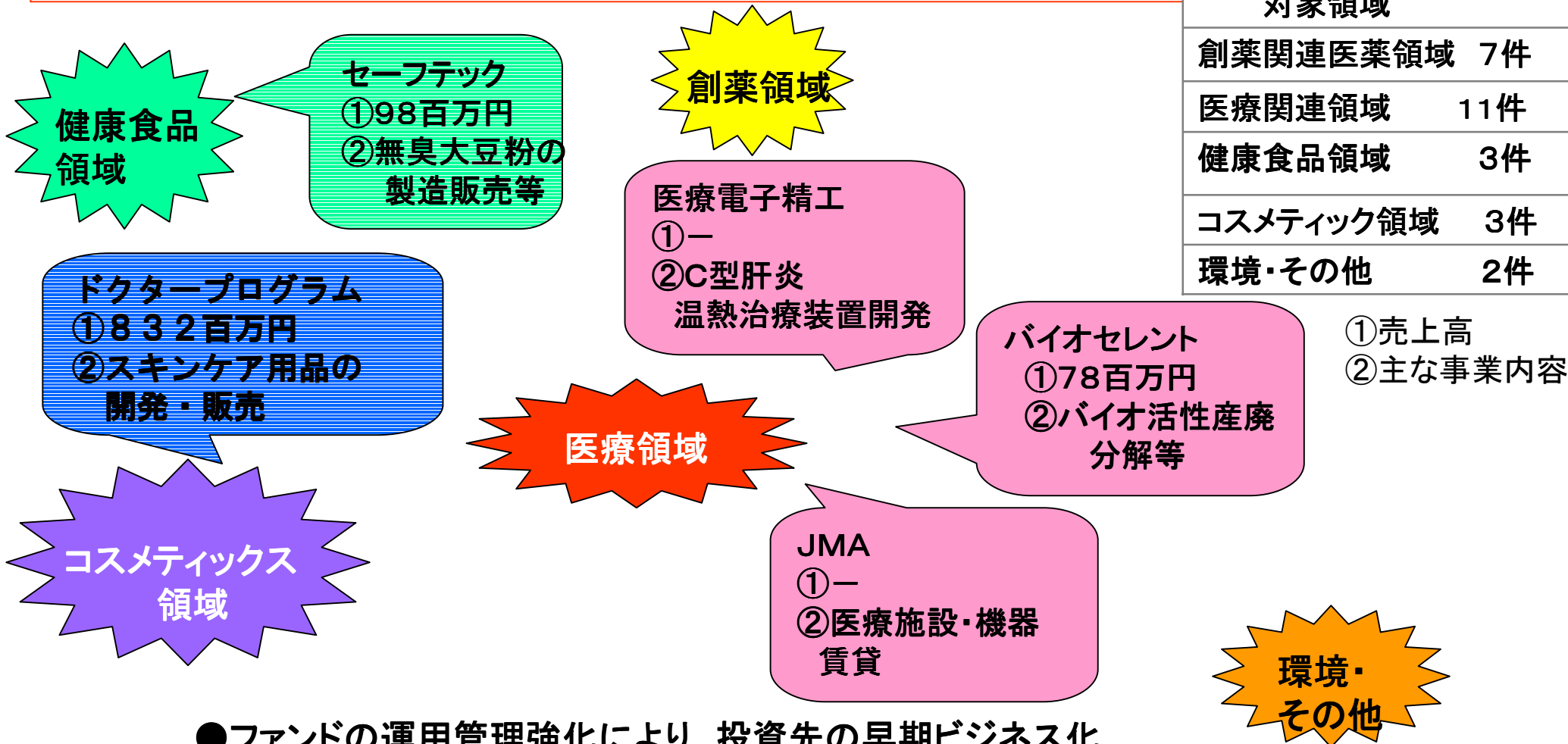
新発売のエイジングケアシリーズ



# ビストナー事業ファンドの状況

・設立 2000年9月  
・出資額 50億円(既出資額 40億円 既投資先26件、投資額 26億円)

対象領域	
創薬関連医薬領域	7件
医療関連領域	11件
健康食品領域	3件
コスメティック領域	3件
環境・その他	2件



- ファンドの運用管理強化により、投資先の早期ビジネス化
- ヘルスケア・ウェルネス領域を中心とした投資領域の選択

# キョーリン製薬： 主要開発品の状況



# 開発品一覧 (06年11月7日現在)

## 申請中

\* : 前回(07年3月期第1四半期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
申請 (04年10月)	Ph I	KRP-197 (錠)	過活動膀胱 治療薬	自社	抗コリン作用が強く、口渇等の副作用軽減が期待される	海外: LGLS社とライセンス 契約 国内: 小野薬品工業と共同 開発・共同販売(予定)
申請 (04年7月)	(メルク社 発売中)	キプレス細粒 4mg モンテルカスト	気管支喘息 治療剤	メルク社	小児(1歳~5歳)用の新規製剤	○ 剤形追加 ○ 新用量 ・万有製薬と共同開発
申請 (05年8月)	(メルク社 発売中)	キプレス錠 モンテルカスト	気管支喘息 治療剤	メルク社	成人: アレルギー性鼻炎 1日1回投与で、LTD4の遮断による鼻炎症状 (鼻閉、鼻漏、くしゃみ)の改善と共に、眠気などの 副作用軽減が期待できる	○ 効能追加 ・万有製薬と共同開発

# 開発品一覧

(06年11月7日現在)



## POCプロジェクト及びPh II ~ III

\* : 前回(07年3月期第1四半期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph III (04年1月)	(ガルテルマ社 発売中)	塩酸アモロルフィン ネイルラッカー	爪白癬治療剤	自社	日本初のネイルラッカー製剤	* マルホとの共同開発 基本契約解消
Ph II / III (05年10月)	(メルク社 Ph III)	モンテルカスト (注射剤)	気管支喘息 治療剤	メルク社	成人: 気管支喘息 剤形追加(注射剤)	・万有製薬と共同開発
	Ph II (04年10月)	KRP-204 (N-5984) (錠)	抗肥満剤	日清製粉	選択性の高いβ3受容体作動薬。 従来のβ3作動薬に比べて心への影響が少なく、肥満を改善することが期待される	日清製粉グループ 日清ファルマと共同開発
Ph II (05年3月)	(大日本住友 Ph III)	AS-3201 (錠)	糖尿病合併症 治療剤	大日本 住友製 薬	アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病性神経障害を改善する	大日本住友製薬と 共同開発(国内のみ)
	Ph II (04年6月)	KRP-101 (錠)	脂質代謝改善/ 糖尿病治療剤	自社	PPARαのagonist。中性脂肪等脂質代謝改善作用に加えて、糖尿病に対する有効性が期待される	
* Ph I (06年7月)	Ph I (06年3月)	KRP-104	糖尿病治療剤	自社	DPPIV阻害剤。インスリン分泌ホルモンの分解を抑えることにより血糖低下作用を示す。副作用の発現が少ない糖尿病治療が期待される	
	Ph I 準備中	KRP-203	臓器移植、 自己免疫疾患	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調整剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ノバルティス社とライセンス 契約
	前臨床	KRP-105	脂質代謝改善	自社	選択性の高いPPARα agonist。KRP-101よりもさらにPPARα受容体に対して選択性が高い。脂質改善作用に加え、アディポネクチンの増加、レプチンの減少、体重増加抑制作用などが動物実験で確認されており、新たな脂質改善剤として期待される	

# 開発品一覧

(06年11月7日現在)

## 導出品の状況

\* : 前回(07年3月期第1四半期)からの変更点を示す

製品名・開発コード	導出先・共同研究先	開発段階	薬効	起源	備考
未定	米国 メルク社	—	合成抗菌剤	自社 米国メルク社	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同研究</li> <li>独占的ライセンスに関する契約締結(04年7月)</li> </ul>
アルファガン/ アルファガンP	千寿製薬	国内Ph II (06年4月)	緑内障治療薬	米国 アラガン社	<ul style="list-style-type: none"> <li>アラガン社より導入 (ガチフロキサシン点眼液のクロスライセンス)</li> <li>千寿製薬に導出(04年5月)</li> </ul>
ケタス	米国 メディシノバ社	海外Ph II (05年8月)	脳血管障害治療薬	自社	<ul style="list-style-type: none"> <li>多発性硬化症の適応での日本、中国、韓国、台湾を除く全世界における独占的な開発、製造販売権を供与(04年10月)</li> </ul>
KCA-757	米国 メディシノバ社	海外Ph II (気管支喘息: 05年1月) Ph II/III (間質性膀胱炎: 05年5月)	気管支喘息 治療薬 間質性膀胱炎 治療薬	自社	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本、中国、韓国、台湾を除く全世界における独占的な開発、販売権を供与</li> </ul>
KRP-203	スイス ノバルティス社	海外Ph I 準備中	臓器移植、 自己免疫疾患	自社	<ul style="list-style-type: none"> <li>移植用の免疫調整剤として、全世界の開発及び販売権、自己免疫疾患及びその他の疾患用剤として、日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の開発及び販売権(なお、炎症性腸疾患用剤としては、全世界の権利を留保している)を供与(06年2月)</li> </ul>

# 参考資料：主な子会社の業績（上期）

単位：億円

杏林製薬	05年度上期	06年度上期
売上高	316	303
営業利益	22	18
当期純利益	12	10

東洋ファルマー	05年度上期	06年度上期
売上高	12	32
営業利益	2	0
当期純利益	1	0

ドクタープログラム	05年度上期	06年度上期
売上高	—	12
営業利益	—	1
当期純利益	—	1

参考：昨年度におけるグループ企業の連結対象期間

		05年度上期
東洋ファルマー	P/L	6～7月（2ヶ月分）
	B/S	
ドクタープログラム	P/L	なし
	B/S	

# 参考資料：主な子会社の業績と予想

単位：億円

杏林製薬	06年3月期	07年3月期(予想)	07年3月期(当初予想)
売上高	674	654	645
営業利益	88	57	54
当期純利益	48	35	31

東洋ファルマー	06年1月期(8ヶ月分)	07年1月期(予想)	07年1月期(当初予想)
売上高	44	73	72
営業利益	3	2	2
当期純利益	2	0	1

ドクタープログラム	06年1月期(7ヶ月分)	07年1月期(予想)	07年1月期(当初予想)
売上高	8	25	21
営業利益	0	3	1
当期純利益	0	1	0

参考：昨年度におけるグループ企業の連結対象期間

		05年度上期	05年度下期
東洋ファルマー	P/L	6～7月(2ヶ月分)	8～1月(6ヶ月分)
	B/S		
ドクタープログラム	P/L	なし	7～1月(7ヶ月分)
	B/S		